

東北大鬼城句会報

於： 学士会館

＜第8回＞句会 9月22日（金） 中元・台風・迎（送）火・^{ひぐらし} 蝸・^{むくげ} 木槿 当季雑詠を含む5句

村上谿聲 選 ◎特選 ◇佳作

◎かなかなや宿題の山減りもせず 蓮圀池

かなかなの鳴きだすのは、夏休も終りのころ、残る宿題の山に焦っているのは親ばかりなのであろう。

◎絵日記の日々おとなびて花木槿 蓮圀池

幼かった子供がどんどん成長して行くに連れて、絵日記にも変化があったことに気づいたのである。

◎噂して中元の麵すすりけり 蓮圀池

あの人のことこの人のことと噂しながら素麵を吸る。若かりし日には想像もつかなかったことである。

◎かなかなの高音競ひて暮れにけり ⑤ 修 人

ひぐらし独特の鳴声と時間帯の特徴をしっかりと捉えている。

◎“立山”を常温で飲み魂送り 隆 一

日本アルプスを遠望して生まれ育ったふるさとのこと、先祖のことを酒を通して回顧するのも人生だ。

◇入谷より短冊つけてお中元 修 人

◇台風の逸れて目覚めのででっぼう 修 人

◇人の世に迷ひつゞけて鰯雲 蓮・興 ⑤・興 仲 安

◇父の影若き日のまま門火焚く 俊 蓮圀池

「佛（面影）の」などとしてみては如何。

◇道の辺の木槿にひかれ名馬塚 隆 一

◇迎え火に仏来たるらし夕の膳 俊 知

「来てをり」と断定したほうがよいのでは？

◇台風やゐる処あり預け猪口 ⑤ 如 雨

「止まり木のあり」、などと表現したほうがわかり易いのでは。

◇如何にして登り来らん抜け殻ぞ ⑤ 武 司

「空蟬（うつせみ）」という季語あり。

中元も二三となりて齢知る 貞 風

ひぐらしの声深まりし寺家の森 ⑤ 興 山

＜互選高点句・特選句より＞

4点 人の世に迷ひつゞけて鰯雲 仲 安

4点 父の影若き日のまま門火焚く 蓮圀池

3点 噂して中元の麵すすりけり 蓮圀池

3点 ひぐらしの声深まりし寺家の森 興 山

3点 野分過ぐ林檎の落ちて畑を染む 俊 知

1点 蝸やいまだに温き池の面 ⑤ 隆 一

村上谿聲作

底紅のゆかしく映えて白木槿
馬追の儚く縋るうすみどり
職退いて女房任せやお中元